

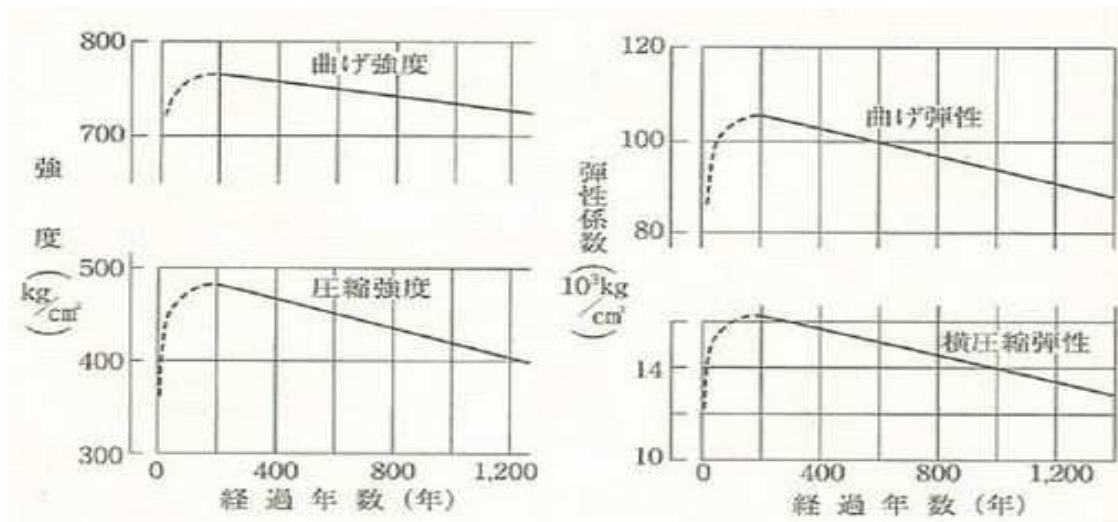
～ヒノキの強さ～

■ヒノキは伐り倒されてから強くなる!!!

木は自然が作り出す人間くさい材料である。1400年経った法隆寺のヒノキの柱と伐ったばかりのヒノキの柱はどっちが強いと聞いたら「新しいほう」と応える人が圧倒的に大いに違いない。しかし、それは正しくはない。

下の表を見てもらうと判るが、伐り倒されてから200年ほどは圧縮強さや剛性がじわじわと2～3割も上昇する。その時期を過ぎてから緩やかに下降を始める。法隆寺は新しい木よりまだ1割ぐらい強い。

【経過年数と強さのグラフ】



右図は経年によるヒノキとケヤキの強さのグラフです。ケヤキは伐ったときが一番強く、年月が経つに従って弱くなっています。一方ヒノキは強度が増していき、その後も急激には弱くなっていません。長持ちする素材というのが判ります。

私たちは機械文明の恩恵の中で、工学的な考え方に信頼を置くあまり、数量的に証明できるもののみ真理がある様に感じてきました。だが、自然のつくったものは木のように素朴で原始的な材料であっても、コンピュータでは解明できない側面を持っています

参考文献 「木の文化をさぐる」小原二郎著

